



つながり



「南予地区学校・家庭・地域連携推進事業情報交換会」が開催されました

2月26日(金)宇和島市立中央公民館をサテライト会場として、「南予地区学校・家庭・地域連携推進事業情報交換会」が開催されました。今回は、コロナ禍のため、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(以下社研)と南予各地(24カ所)をつないだオンライン研修としました。



【サテライト会場の様子】

社研から全国社会教育委員連合常務理事 馬場祐次朗先生に「地域における学校との連携・協働活動」と題して講演をいただき、質疑応答、情報交換を行いました。

馬場先生からは、○地域と学校との連携・協働活動の意義、○コーディネーターの役割、○事例から学ぶプログラムの計画立案のヒントについて、具体例を交えてご指導いただきました。

「学校、家庭、地域が抱える課題は、それぞれが単独では解決できない状況がある。だからこそ、今、地域学校協働活動をツールとして地域の人が学校に入っていくチャンスである。そのことで、学校を核として地域に豊かなつながりをつくることもできる。」というお話から講演が始まりました。また、「学校を核とした地域づくり」「社会に開かれた教育課程の実現」の推進に至る背景や経緯、学校の立場から学習指導要領の改正についてなど理論的な理解を深めることもできました。

地域学校協働活動の具体的な事例としては、滋賀県竜王町、山口県長門市の公民館を拠点とした活動、松山市の「ふれあい食堂」の様子を紹介していただきました。



【研修画面、質疑・情報交換】

最後に、コーディネーターが、学校、家庭、地域のつながりを意図的につくり、子どもだけでなく、大人に対しても、自分の住む地域に対する理解を深め、愛着と誇りを育てることが大切であると締めくくられました。

参加者の皆さんからも様々な感想が寄せられました。

コーディネーターの心構えや可能性を示していただいた。竜王町の活動の動画を見てうまく活動していて素晴らしいと思った。

会場に集まって行う研修も大事だと思うし、今の時代の状況では、こういうオンラインも参加しやすくてよかった。

学校の支援に地域住民の方に来てもらいサポートを受けることが基本にあったが、パートナーとして地域住民も成長するという視点が発見だった。

今回は、十分な情報交換の時間を取ることができませんでしたが、オンライン研修のよさを感じていただいた参加者の方も多かったようです。様々な研修方法がありますが、より参加しやすい研修の在り方を今後も考えたいと思います。

具体的な事例をもっと知りたいという感想もありました。社研の右記HPにも、様々な情報が掲載されています。ご参照ください。※「社研の窓」平成28年度も参考になります。

社研 TOP ページ :

<https://www.nier.go.jp/jissen/index.htm>

「社研の窓」令和2年度 :

<https://www.nier.go.jp/jissen/el-Net/R02/index.html>